

# ART KISS LEITER

FOR KUMAMOTO ART PEOPLE Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市現代美術館発行 <http://www.camk.or.jp> [2007.初夏号] **vol.33**



## 記念対談「森村泰昌×日比野克彦—美の教室はどこにある？」 2007.4.28

森村泰昌展の記念対談にアーティストの日比野克彦さんをお迎えしてトークを行いました。日比野さんが展覧会場で受けた修了テストの解答を森村さんがコメントするところから始まったトークは、終始笑顔のたえない楽しい内容。それぞれ、緑茶商と新聞販売店の息子さんである森村さんと日比野さんの作品に、家業の性格が反映されているという発見は、とても興味深いものでした。(A.S)



# Museum information

## アーティスト・トーク「森村泰昌—17歳のための美の教室」 2007.3.24

すべての高校生(とかつて高校生だった方々、これから高校生になる方々)を対象にした、森村泰昌さんによる講演会が開催されました。森村さんご自身が17歳の時、文学そして芸術にめざめられたというエピソード、登校拒否気味の高校の先生時代のお話からはじまり、モナリザは眉毛全剃りでも美人であったという発見や、「詩とメルヘン」に入選した自作のSF物語の朗読など、楽しく、笑いにあふれつつも非常に哲学的なおもむきに満ちた講演会でした。(H.T)



## CAMKレクチャーカレッジ「森村泰昌と三島由紀夫」 2007.3.25

当館館長の南郷宏が、「森村泰昌と三島由紀夫」というテーマのもと、出品作品《なにものかへのレクイエム》(当館所蔵)を軸としてレクチャーを行いました。

福島次郎生没の地でもあり、三島由紀夫有縁の地である熊本で、三島をテーマにした作品を出品する展覧会を開催できたことへの企画者としての喜びや、1991年に自らのなかに直感的に感じていた森村と三島の繋がりについての考察、三島由紀夫と東大全共闘との討論集にみられる三島の発言にある、三島自身の肉体と精神の関係性への葛藤に対する答えのようにも感じられる森村泰昌の芸術表現についてなど、さまざまな側面より、森村泰昌の芸術を考えるためのキーワード三島由紀夫についてお話ししました。



## CAMKレクチャーカレッジ「モリムラ作品で学ぶ美術史入門」 2007.5.6

森村展の担当学芸員坂本顕子が、「美の教室」で紹介された美術作品を、いま一度美術史の時系列に沿って並べ替え、森村作品と引用された作品の画像を見比べながら美術史を学ぶ、という「一粒で二度おいしい」レクチャーを行いました。最後には、三島由紀夫の市ヶ谷演説の音源も披露され、森村が「なる」ことで私たちにつたえようとするメッセージに、しばし思いをはせるひと時となりました。



## 村上タカシ講演会「行為としてのアート IZUMIWAKU project〈学校美術館構想〉展から〈SENDAIプロジェクト〉まで」 2007.2.18

「アルス・クマモト」展の参加作家として、八代出身の村上タカシさん(美術家、宮城教育大学助教授)をお迎えして、杉並区の中学校を舞台にしたアートプロジェクトである「IZUMIWAKUプロジェクト」や、仙台の商店街を舞台に、大学生が中心に展開している「SENDAIプロジェクト」まで、その幅広い活動をご紹介いただきました。(A.S)





## ATTITUDE2007展打ち合わせ進んでおります、アーティストぞくぞくご来館!

### ① 木下晋さんが来館されました 2007.2.14

ATTITUDE2007の出品作家の一人、木下晋さんが展覧会の打ち合わせのため来館されました。木下さんは9Hから9Bまでの20段階の鉛筆を巧みに使い分け、濃度によるグラーションにより、独自の鉛筆画の世界を築き上げられました。今回の出品作品は、鉛筆画と27年間の日記を予定しています。日記は、見開き2週間分の市販の手帳に、毎日の出来事を綴ったもので、1日分に約13行で600字程度の文字で埋め尽くされているそうです。その圧倒的な痕跡が、どんなインスタレーションになるのかとても楽しみです。(N.I)

### ② やなぎみわさんと、中山ダイスケさんご来館 2007.4.13

7月21日に開幕する開館5周年記念「ATTITUDE2007 人間の家一頁に歓喜に値するもの」展参加アーティスト、やなぎみわさんと、中山ダイスケさんが打ち合わせのために4月13日(金)に来館されました。今回の展覧会のコンセプトや、5年前に開催された開館記念展の「ATTITUDE2002」の内容に熱心に耳を傾けて下さいました。やなぎさんは、「ATTITUDE2002」に出品されていた抱き人形の太郎君に関心を示され、中山さんは、本展のコンセプトから、新しい展示のアイデアが浮かんだご様子です。

その日は、ちょうど当館のスタッフ歓迎会だったのですが、打ち合わせ後、やなぎさんと中山さんは、快く飛び入り参加して下さいました。歓迎会は、アットホームな雰囲気の中、大盛況のうちに幕を閉じました。やなぎさん、中山さんが、どのような作品を出品して下さいのか、どうぞお楽しみに!! (A.A)



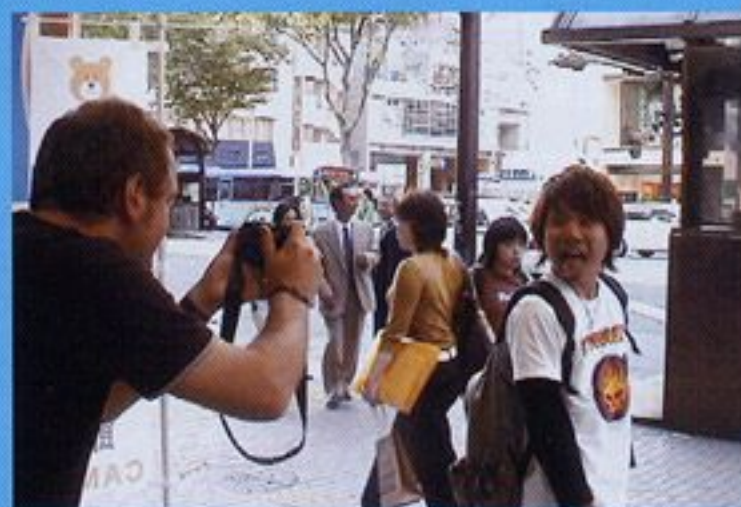
やなぎみわさん

### ③ ガイスマール・プロジェクト 2007.5.10-13

ヨーク・ガイスマールさんは、以前お土産に受け取った「おぼけの金太」を気に入っていたそうです。2007年2月、熊本で制作者の厚賀新八郎さんとお会いし、「舌をだす」ということの意味に魅了され、新作のアイデアを得ました。

今回の展覧会のためのプロジェクトでは、「舌をだす」熊本の人々を撮影したいと考えました。「舌をだす」しぐさは、拒絶や軽蔑の意味だけでなく、ユーモラスでもあり、ガイスマールさんは、ここから新たなコミュニケーションが生まれると考えています。あの科学者アインシュタインが、舌を出している写真は、皆さんの記憶にもあるのではないのでしょうか。世界に対してユーモアをもって立ち向かう、ちょっとした振る舞いで世界をつなぐ、そんな思いをこめたプロジェクトです。

さる5月10、11日は熊本バルコの店頭スペース、12、13日は熊本市現代美術館で、この作品制作のための撮影会が行われました。舌をだしたポーズの写真には、恥ずかしいと遠慮される方もいらっしゃいましたが、最終的に852人の方が、このプロジェクトにご参加くださいました。この写真は、この夏の展覧会にて展示される予定ですので、どうぞお楽しみに!(Y.H)



### プレママ美術館ツアー 2007.2.4

プレママとそのご家族、お友達とご一緒に、授乳室やキッズサロンなど館内の施設のほか、「アルス・クマモト」展を学芸員と一緒に観覧しました。今回は妊婦さん以外のお友だちチームのご参加も多く、嬉しい限り。皆が気軽にやってこれる、子供づれにもやさしい美術館でありたいなあと考えた次第です。(A.S)



### 日比野克彦さんご来館 2007.4.2

今年の12月より開催する「日比野克彦 HIGO BY HIBINO(仮称)」展の打ち合わせのため、日比野さんが来館されました。美術館で展覧会をおこなうのは年末ですが、それより前から、日比野さんと熊本をもっと結びつきの深いものにするために、今年1年をかけて、様々なイベントが開催されます。その打ち合わせとともに、日比野さんの恒例の夏のイベントといえば、「明後日朝顔プロジェクト」ですが、このプロジェクトを熊本でも展開するため、ご協力いただける場所の下見などを行いました。(H.T)



### 明後日朝顔プロジェクト種植え式 2007.4.28

「日比野克彦 HIGO BY HIBINO(仮称)」展のプレイベントと位置づけて行う、明後日朝顔プロジェクトの朝顔種植え式を行いました。この日は、開催中の「森村泰昌 美の教室、静聴せよ」展記念対談で日比野克彦さんが来館していたため、記念対談後に森村さんも交えたところで、熊本の開催地代表者を来賓に迎え、式を厳粛に執り行いました。朝顔の種を大人5人が黙々と植える姿に、観客からかすかな笑声がわいた楽しい式典となりました。(明後日朝顔プロジェクト熊本 CAMK 担当:橋本真紀子)



### CAMK春のピアノコンサートvol.3 2007.5.3

今回で3回目を迎えたピアノボランティアさんによるコンサートが開催されました。登録したばかりの紅一点ならぬ黒一点?の男性ピアニストによるリスト作曲「タランテラ」は圧巻でした。開館当初から弾いてくださっているピアニストから登録したばかりのピアニストまでを一堂に会してのコンサートは、新鮮かつ単純に楽しいもの。秋のコンサートが今から楽しみです。(E.Z)



### GW人形劇「たべられたやまんば」 2007.5.4

GW人形劇として、「まつぼっくりのおはなしおじさん」による、影絵ファンタジー&大型立体紙芝居が上演されました。雨にもかかわらず会場のホームギャラリーは大入り満員状態。「おもちゃのちゃちゃちゃ」など子供たちにおなじみの曲に合わせて影絵が始まると、手をたたき、歌を歌うなんとも楽しそうな子供たちの姿に、周りの大人もすっかり童心に返った様子でした。帰りながら指で影絵のきつねを作りながら帰っている子どもたちの姿がほほえましいイベントとなりました。(E.Z)





# SUITTÖ KUMAMOTO

【スイトット・クマモト】

本年度のスイトット・クマモトは、熊本の華人インタビューです。(インタビュー・構成: 蔵座江美)

\*いける=花を生かす、ことと考え、ここでは「生ける」と表記します。



## 【南草流編】

花に興味があることに気づいた母親の勧めでいけばなを始めましたと、にこやかに語り始められた古家草春先生。小学生の頃、一般の人たちに交じっていけばなの指導を受けられていたにもかかわらず、楽しくて一度も休まれたことがないという。いけばなをやってよかったと思うのは、季節を先取りできることや感性を磨けることとおっしゃる先生とお話していると、本当にお花がお好きなのだということがひしひしと伝わってきて、先生の生けられるお花が優しく感じられるのはそういった心の表れなのだと思います。好きなお花は桜とのこと。いつもにこにこ笑顔の素敵な先生には、赤いダリアがお似合いだと思った。今年の桜はどんな風に生けられたのか、気になるところである。



熊本の華人展vol.2作品



熊本の華人展vol.3作品

## 【拈華流編】

筑紫幸笑先生には、いけばなを担当し始めたときにまず流派の読み方をお尋ねしたことを思い出す。そのときに拈華流が熊本で生まれた流派ということも知り、もっといけばなのことを知りたいと思ったきっかけとなった。できるだけ枝ものを主にして季節の花を入れるようにしているとおっしゃる先生は、今は茶花を研究していらっしゃるとのこと。「お花はつぼみから始まりますから、つぼみは必ず生けます」という言葉も印象的だった。50年経ってもまだ先代のように生けられない、何年経とうと日々勉強ですとおっしゃる先生だけに、茶花も熱心に研究されていることと思う。そんな先生のお好きなお花はシュウメイギクとのことだったが、緑に映える山吹が先生の笑顔にはびったりだと思った。





アーティストがみずからの作品(当館収蔵作品)にコメントをよせるコーナー「レター・フロム・アーティスト」。あわせてアーティストの最新情報をお届けします。

# Letters from Artists

第6回 yook keun byung(ユック・クンビョン)さん (from 韓国)

1957年韓国全州生まれ。キョンヒ大学卒業、キョンヒ大学大学院卒業。1992年、第9回ドクメンタ出品、2000年、越後妻有トリエンナーレ出品など国際的に活躍している。

Q1 《The Soound of Landscape + Eye for Field = SilentEye》ならびに

《Asia Synchronize Baby Project》シリーズについてお聞かせください。

《Baby Project》では、これまで、熊本の赤ちゃん(2002年)、韓国の赤ちゃん(2003年)、中国の赤ちゃん(2004年)、そして今回ベトナムの赤ちゃんを撮影しました。

これまでのシリーズでは、赤ちゃんの片方の目、閉じたまぶたを撮影してきましたが、今回の作品は、彼らの生活する様子を映しました。赤ちゃんの日常生活の映像はとても意味深いものだと思います。彼らの眼は、ご存知のとおり肉体に属しているものだからです。ですので、今回は彼らの眼とともに生活の様子を撮影しました。見たものと見せられたもののあいだにある差異もまた、人間の人生の一部なのです。

赤ちゃんの日常生活というのはとても重要だと思うのです。ご存知のとおり、それはとてもシンプルです。行動範囲は、母親や家族と地続きです。それが意味していることは、人間の子供は、母親や家族を通して社会のルールを学ぶということです。彼らは、社会的な人間となるための初めの一歩を家族とともに踏み出すのです。

また、私には、今回撮影したベトナムの赤ちゃんたちのような、幼い頃のとても美しく純粋な思い出がたくさんあります。この作品を撮影したことで、幼き日々のことを思い出しました、そしてとても幸せな気分になったのですが、一方、私の純粋な子供らしさはどこに行ったのかと考えたのです。私は人生の複雑なからまりあいのなかにいることを自覚しました・・・。

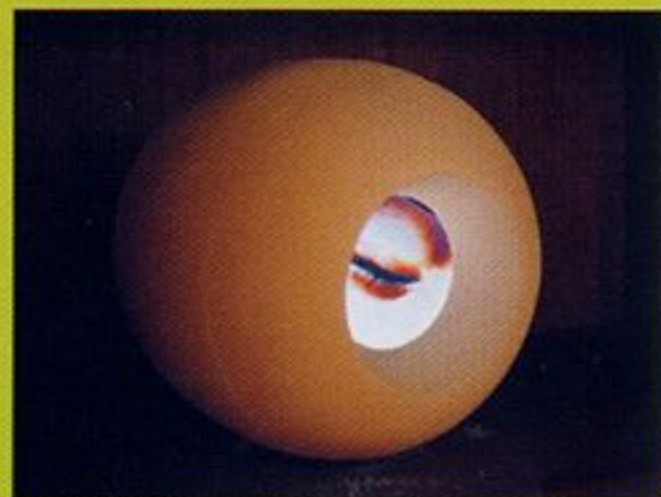
Q2 読者の方にメッセージをお願いします。

人間の子供はとてもピュアですが、大人はどうでしょうか？我々は段々と純粋さを失ってしまっていて、いつも現実の瑣末な事柄のみに眼を向けています。どうぞあなたの心のなかに、かつてあなた方がそうであった頃の、こどもの気持ちを留めてください、それは素晴らしいものなのです。私は芸術というものが、人生を振り返ったり、人生を認め、確かめるためのひとつのツールだと思うのです。

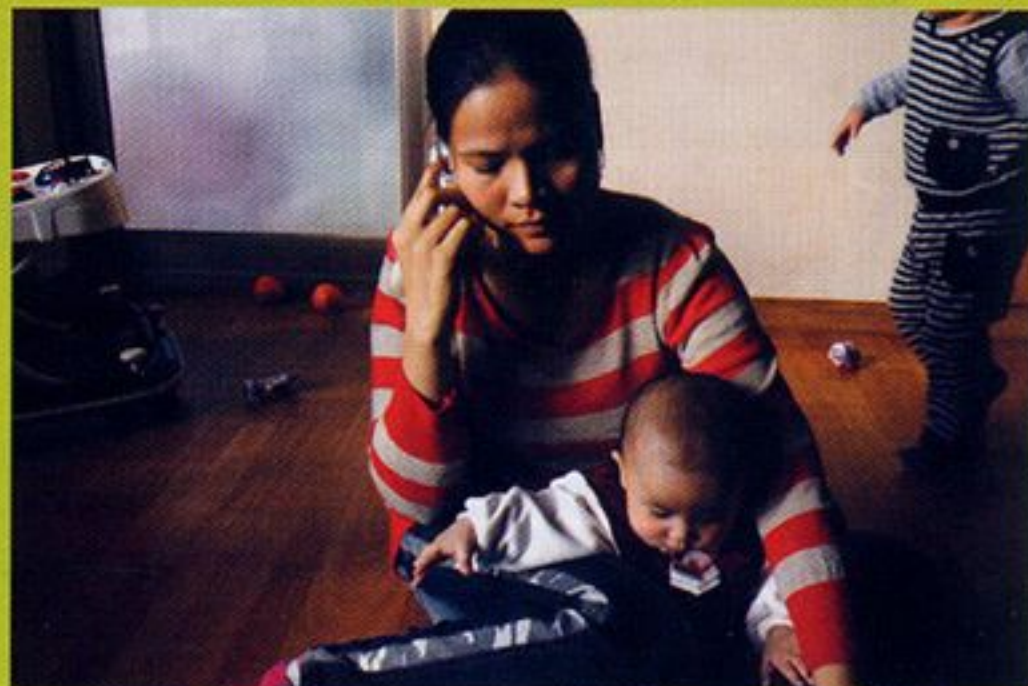


Q3 最新作はどこで見ることができるでしょうか。

今年は、ニューヨークの国連ビルで、《UNプロジェクト》を行うべく準備中です。また、《The Soound of Landscape + Eye for Real = Silent Eye》ならびに《Baby Project》のベトナム版は、熊本市現代美術館のホームギャラリーで常設されています。(翻訳・編集:H.T)



《The Soound of Landscape + Eye for Field = Silent Eye》  
熊本市現代美術館蔵



《Baby Project Vietnam》熊本市現代美術館蔵



# ART de Gyan!

【アート・ド・キャン】  
熊本県で「アート・どう?」の展です。

【March-June】2007

## 第20回書団連選抜臨書展

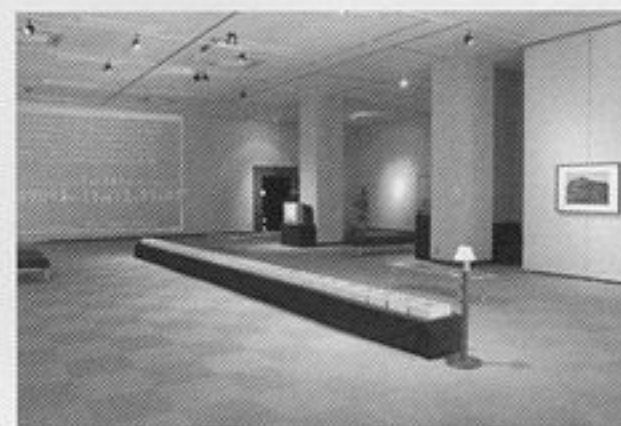
2007.3.13 - 3.18 熊本県立美術館分館  
熊本市千葉城町2-18 TEL351-8411

全国書道団体連合会九州総局(鳥飼孝一会長)が主催する臨書展で、今回は関係各団体から推薦を受けた80名が、中国および日本の古代から現代までの歴代の名作に挑戦した各1点を出品していた。事務局の森山淡草は中国・明時代の王鏊(おうたく)の「行草書七言律詩」、主幹の緒方龍生さんは宋時代の蘇軾(そしやく)の「祭黄幾道文巻」の長文横巻を発表した。「臨書」とは、日中の名作を研究する書独自の勉強法であるが、その勉強の仕方は今日では誠に多種多様で、極めて写実的な模倣から、己の創意を盛り込もうとする意欲作、それに古典から受ける直感的な印象や触発された心象などを強調的に表現しようとの試みまで幅が広い。三島天鴻さんの「天発神籤碑」は2x7米の超大作、岩本竹田さんの「楊准表記」は7幅の連幅で注目を集めていた。いずれも自から表具ができる強みを発揮したものであろう。日中を比較すれば、歴史の長い中国が圧倒的に多いし、大小、様式、内容面での変化にも富んで賑やかなのは当然と思われたが、それにしても今回は仮名の分野に出品数が少なかったようで、日本の書独自の美の様式のアピールが少し寂しかったのは残念な気がした。(T.M)

## look and feel 3[時・感]

2007.5.22 - 6.3 崇城大学ギャラリー  
熊本市花畑町10-25 TEL323-1158

崇城大学芸術学部デザイン学科クロスメディアデザインコース森野セミによる作品展。研修旅行で見学した「時間」をテーマにした展覧会に触発され、今回の「時・感」というテーマに辿り着いた。「時間」とは何か、という問いに、写真、映像、CGなどを用いた11点の作品がそれぞれ異なるアプローチで実験的に取り組んでいる。作品の制作にあたって「時間」について調べ、3つの「時間の構造」を知りそれを表現したいと考えたという中本有城さんの写真作品は、黒背景にルミカライト(化学発光体)による、直線、円、螺旋の3つの時間構造を表す軌跡を残すことによって、彼が「光」と「時間」という主題を表現していた。「時間」という人類永遠のテーマに臨む、それぞれの考察と実験的な試みが面白い展覧会であった。(S.Y)



## 第47回白鷗書道会展

2007.4.3 - 4.8 熊本県立美術館分館  
熊本市千葉城町2-18 TEL351-8411

白鷗書道会は、故中村龍石さんが興したかな書道会で、県下で最大の書道団体でありその歴史も古い。今は中村天香(日展会友)さんが引継いでおり、多くの作家を育てている。今回は熊本市と福岡市と東京の会員227人が、かなと調和体作品363点を軸や額や屏風等で展示した。中村天香会長の北原白秋の歌4首は、調和体書で素直な表現である。田内研水さんは藤原為子の歌「花の色はかくれぬほどに…」を加工紙に濃墨でかなの連綿の美しさを見せていてあがかない。那須球石さんは清水比庵(しみず・ひあん)の歌「八重結びつぎつぎ花のさきつぎてあわぬ日かすを美しくする。」という恋の歌を、蔵鋒で力強く書き出し、途中で変化させ潤濁をきかせている。浦田瑛雪さんは、長谷川素逝(はせがわ・そせい)の俳句「日輪のしたにうかみてこはる雲」を大胆な力強いタッチで書いている。中村天香さんは藤原武之の本の「仏の座」の花の名のことを調和体で書き、素直で自然な姿が感じられて良かった。選抜会員による六人展は、伊藤翠葉さん・三浦淑子さん(熊本)、又木白雲さん(東京)、高橋愛子さん(千葉)、柴田多計子さん(神奈川)、谷口辰子さん(福岡)等である。それぞれに長いキャリアがあり、個性豊かに表現されていて風格がある。会場には、役員による百人一首を扇面にかき、大型パネルに張り合わせた合作等多彩で明るい会場となっていた。(S.K)

## 橋本隆齋油彩展

2007.5.21 - 5.31 画廊喫茶 ジェイ  
熊本市大江本町6-9(味噌天神電停前) TEL372-8732

橋本隆齋さんの個展。野に咲く花、建築物、空を題材に、26点の油彩が展示されていた。花を題材にした作品では、アザミやアジサイなどの可憐な花が優しい色使いで描かれている。その一方、「建つ」を始めとする建築物の作品は、安定した構架性と地面からすくっと上を向いて立ち上がる建物の力強さが表現されている。その後、これら建築物が見上げる空の表情を追求した作品が配置されている。そこでは、季節や時の移り変わりが、光の加減や雲の動きによって表されている。特に「春の雨」では、穏やかな日の静かな雨音の心地よさまでが伝わってくる作品であった。(A.A)



## 熊本市美術展「コラボレーターの会」第9回小品展

2007.5.2 - 5.8 鶴屋百貨店東館8階ふれあいギャラリー

「コラボレーターの会」は、当館で毎年開催している熊本市美術展熊本アートパレードとともに支えて下さっているボランティアさんの会である。現在は、15名の会員で活動している。会の皆さんはそれぞれに制作活動をされており、分野も油絵、日本画、水彩画、版画、水墨画、写真、手描き友禅、ステンドグラスととても幅広い。熊本アートパレードは11月3日(土)~18日(日)「ときをこえて」をテーマに開催予定。(N.I)



## ゆるやかな静寂 田尻幸子

2007.4.27 - 5.6 GALLERY KoEN  
熊本市上林町1-28-15

ロンドンでアートを学び、現在熊本で作品を発表する田尻幸子さんの個展。ギャラリーの展示室の内側と外側とは全く違った場づくりがえられていた。真っ暗な会場、白い小石が敷き詰められ、目線やそのうえのほうに、糸状のスタッフ(麻の繊維)を蜘蛛の糸のように張りめぐらすというインスタレーション作品である。室内が暗いことによって遠近感ともどうような感覚と、わずかな光にあたってきらめくスタッフの線が非常に繊細である。会場内で、視覚を敏感な状態にして、作品をゆっくり体験してもらおうのが田尻さんの願いでもある。田尻さんは、ここ数年の個展を通して、空間に張りめぐらされたラインは徐々に減少しつつも、場や空間に対する意識は高まってきていると語られていた。張りめぐらされたスタッフに象徴される、アーティストの手元で作られた静かな時間の積み重なりも作品の魅力のひとつでもある。(H.T)

## RKK学苑金曜洋画教室展(昼)

2007.5.22 - 5.27 熊本県立美術館分館  
熊本市千葉城町2-18 TEL351-8411

RKK学苑で学ぶ15人の方の作品展。今回4点出品されている徳永国雄さんにお話を伺った。徳永さんは、塗り重ねが得意、強固な仕上がりとなる油絵が好きで、20年来描きつづけて、以前はスケッチに出歩き、船などを描いていたが、最近は身の回りのものを題材として選ぶようになったという。好きな画家はゴッホで、怒りを感じさせるようなタッチが魅力だとお話を伺った。今年の春に約30時間かけて描いた、この《忿怒》は、動的な構図のなかの赤色の配置が効果的に全体を引き締めており、力強いエネルギーを感じさせる作品であった。(Y.H)



## 熊本城築城400年祭 合同いけばな展

2007.3.24 - 4.8 熊本城数寄屋丸

熊本城築城400年祭関連企画として合同いけばな展が開催。第1次から第5回に分けて100人の華人たちの作品を楽しむことができた。熊本城数寄屋丸といういけばなにはうつつの場所に加え、花々が咲き誇る春の開催となり、当館主催の華人展とはまた違った花々の空間が広がっていた。桜や新緑をふんだんに使った作品が多く、海外からの観光客の反応も上々の華展だった。(E.Z)



## 第10回 押し花創作展

2007.5.23 - 5.28 アートスペース大宝堂  
熊本市上通町5-6 TEL354-2155

押し花教室の作品展。花の美しい一瞬を閉じ込めた色とりどりの押し花が鮮やかに会場を彩っていた。遠くに山を望む風景を表現した作品はまるで絵画のようで、草、枝、木の皮などの素材を巧みに用いて構成されていた。大輪の艶やかな芍薬を中心に据えた迫力あるものや、可憐な野の花を全体にあしらった柔らかな感じの作品もあり、花の数、人の数だけ新しい表現が生まれているのだと感じた。他にも野草を使ったランプシェード、屏風や小物など、姿や雰囲気を変えた押し花が訪れる人々を楽しませていた。(A.T)



## Visitor's Letter

来館者のみなさんからのメッセージ アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介いたします。

### ◆ 森村泰昌展

・参加する工夫がなされていてとてもおもしろかったです。最後に修了証書が頂けるのも感動です。学校の教室、ランドセル、試験など楽しい懐かしいものが沢山、飽きずに楽しめました。作品も一度は見たことのある、しかし新しさのある変わったもので刺激的でした。(22歳、女性、熊本市内)

・分りやすく面白かったです。初心者ですが(そして別に芸術に詳しくとかでもないです)楽しかったです。(28歳、女性、熊本市内)

・森村さんの解説つき、というのがおもしろかったし、もとの作品と森村さんの作品どちらにもいろんな視点から見る事ができて楽しめた。(26歳、女性、福岡県)

### ◆ その他

・生活団の子供たちの作品展がとてもいいです。ぜひ続けてください。(42歳、女性、熊本県)

・この美術館は市民に開かれており本当によいと思う。(37歳、男性、熊本市内)

# Museum information

## G III Vol.45 市老連創設45周年記念 第12回シルバー文化作品展 2007.3.3-3.25

第12回シルバー文化作品展を開催しました。熊本市老人クラブ連合会、熊本市シルバー人材センター、熊本県シルバー人材センター連合会の会員のみなさんの作品を展示しました。絵画、書道、手芸、陶芸、工芸、写真とジャンルもさまざまで、ひとつひとつの作品を見ていると、とても元気な気持ちになれる展覧会でした。今回は、熊本市老人クラブ連合会と親交のあった故・松野頼三氏が生前愛用されていた遺品も展示しました。(N.I)



## G III vol.46 洲田安子展 『絵画』を巡る闘争 2007.3.28-5.27

海老原喜之助に師事し、現在も教えを胸に留めながら熊本で制作を続ける洲田安子(1933-)さんの展覧会を開催しました。本展では1950年代から最近作まで、力強くも繊細な作品の数々をご覧いただきました。計算されたその空間表現には観る者を別の次元へ誘い込むような力があり、描きこまれた画面をじつと見つめる人の姿も見られました。4月1日のアーティストトークでは、三原色を基本とする色彩観や主題とモチーフの関係性、趣味の山登りのことまでお話しいただき、作品と向かい合う姿勢や人柄を知ることができたトークでした。長年絵画講師を続けている洲田さんから絵を教わったという方々も多く訪れ、賑わいのある展覧会となりました。(A.T)



## お知らせ

●ホームギャラリーのピアノが新しくなりました  
4月からピアノが新しくなりました。毎晩のピアノ、ボランティアさんによるホームギャラリーコンサートで、フレッシュな音色が奏でられています。

●井手宣通記念室展示替えしました  
今期のテーマは、「雲と雨、海」です。井手は、海辺の風景画を多く描きましたが、作品に表現されたドラマティックな激しさを持つ空、そして雲、それをあますことなくうつしだす海の表情をお楽しみ下さい。

●館内展示替えしました  
新年度をむかえ、館内無料ゾーンも展示替えしました。収蔵作品15点を出品しておりますが、海老原喜之助(曲馬)、桐本妙子(無限につながる画面)、蔵本朝美(水車)、宮崎昭吾(ポートレイト'03)、川上尉平(ばら)、福島次郎(花ものがたり)挿絵色紙セット)より2点、横尾忠則の宝塚歌劇団ボスター5点が収蔵されてより初公開です。

●新収蔵作品の紹介  
平成18年度の新規収蔵作品は、これまで当館の企画展で紹介したユックンピョン、横尾忠則、アン・ハミルトン、森村泰昌、naonao's(森川尚美)、森山淡草、真珠子の作品など10名・24点の作品を購入しました。また、田淵安一、福島次郎、naonao's(森川尚美)の3名による3点と1セットの作品が寄贈されました。



# ooh-vanguard! 大番外

当館学芸員が心動かされた芸術・文化の動向について語りあうコーナー、「大番外」。

第5回

## モクモク工房@CAMK

(竹田 茜)

当館内5階にあるキッズファクトリーでは毎月第2木曜にモクモク工房という大人を対象とした陶芸教室を開催しています。キッズファクトリーをいつも誰かが物を作っている場所にしたいという想いから、2003年6月モクモク工房は始まりました。でもなぜ「モクモク工房」という名前になったのか。それは「木曜日」に「黙々と」活動するという言葉の掛け合わせからでした。

そんなモクモク工房はいろんなことに大人がチャレンジしていこう!という目的のもと、陶芸経験のあるスタッフと陶芸用の窯という条件が揃っていたことから、活動のスタートとしてまずは陶芸をやろうということになりました。ただ「陶芸教室」というのではなく、自分らしいモノ作りが中心の「なんでもありの大人の粘土遊び」という感

覚でそれぞれが自由に表現する時間です。約4年間で34回の講座を実施し、実用性のある器から企画展にちなんだユニークなものまで、作った人の個性あふれる楽しい作品づくりを行ってきました。

いろいろ作られた中でも印象的な制作テーマだったのは2004年の「生人形と松本喜三郎」展開催中に行った「スーパーリアルおもしろ人形」。喜三郎に負けじとリアルを追求し、髪の毛や服まで作った人も!難しいテーマに果敢に挑戦するみなさんのパワーとまるで我が子へ与えるような愛情がぎゅっと込められた人形たちはとってもいい顔をしていました。

現在は陶芸の講師を迎えて、基礎を教わりそれを踏まえて制作していて、継続して参加している方は腕にどんどん磨きがかかっています。みなさん本当に「モクモク」と集中していて、どんな形、どんな色にしようかというイメージが、自らの手で徐々に形作られていくという特別な嬉しさはみなさんをいきいきと輝かせてくれます。趣向を凝らし

たり、あえてシンプルにしたりと様々な作風はその人らしさや意外な面といった内的な部分まで表しているようで、何かを作ることは自分を表現することだと改めて気付かされます!

そうして作られた作品が焼き上がる度に「おもしろい色になった」「素敵な器ね」とうきうきした声で感想を述べられるのを聞くと、とても羨ましくまた誇らしい気持ちでいっぱいになります。「遊び」から始まった陶芸との出会いがかけがえのない楽しみとなっていき、そんな瞬間に立会い、その喜びを間近で見ることができるのはとても素晴らしい経験だと思います。美術館としても市民の皆様が必要とされ、美術や表現に親しんでもらう点でもいづらか役割を果たしていればと思います。

今もモクモク工房では「遊び」から得た自由さと「基礎」から得た技術がうまくプラスされ、ますます独創的な陶芸作品が生まれています。今年は4月から8月にかけて作った作品を美術館を訪れた人

に見てもらおうと展示会を計画中です。みなさんに展示会をしようと呼びかけるととても恥ずかしそうにされていましたが、制作意欲は充分のようです。目下制作中ですのでどうぞ期待!

平成18年度の制作テーマ	
第26回 サラダボウル	第30回 豆皿5枚セット
第27回 コーヒーカップ	第31回 大皿
第28回 湯のみ	第32回 花器
第29回 ドレッシング入れ	第33回 自由制作
	第34回 自由制作



1. かたちをつくり出す



2. 釉薬で色付け



3. できあがり



4. できあがり



5. 完成した作品を手に記念撮影

**編集後記**  
熊本市現代美術館は今年で開館5周年を迎えます。開館記念展として「ATTITUDE2007 人間の家-真に歓喜に値するもの」、「日比野克彦 HIGO BY HIBINO(仮称)」などを準備中です。ATTITUDE2007出品作家や、日比野克彦さんとのミーティングのたびに生み出される、様々な「すごい!」や「面白い!」が積み重なって、展示会の内容が形成されていく様子からは、アーティストと同時代を生きる楽しさがしみじみと感じられます。さて、開催中の「森村泰昌一美の教室、静聴せよ」展は、初の森村さん自身の語り

による音声ガイド(無料貸出)や、モノリザに变身できるコーナー、本展で初公開の作品、修了試験など、森村さんが入念にご準備されたサプライズがいっぱいあります。7月8日(日)までの展示です、ご来館お待ちしております。

\*なんと、修了試験の内容は熊本オリジナルです。展示会は横浜美術館へ巡回しますが、修了試験の問題内容は異なります。

編集長 富澤治子

●執筆一覧 ●ギャラリー取材原稿の文末にイニシャルにて記載しております。

兼城昌山  
Syozan Kaneshiro (書道家)  
森山淡草  
Tanso Moriyama (書道家)  
本田代志子  
Yoshiko Honda (熊本市現代美術館主任学芸員)  
瀬屋江美  
Emi Zoza (熊本市現代美術館学芸員)  
富澤治子  
Haruko Tomisawa (熊本市現代美術館学芸員)

坂本顕子  
Akiko Sakamoto (熊本市現代美術館学芸員)  
芦田彩英  
Aki Ashida (熊本市現代美術館学芸員)  
竹田 茜  
Akane Takeda (熊本市現代美術館学芸アシスタント)  
伊豆菜々  
Nana Izu (熊本市現代美術館学芸アシスタント)  
矢加部 咲  
Saki Yakabe (熊本市現代美術館学芸アシスタント)

●発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.33  
2007年6月発行(初夏号) ◎無料◎  
●発行人/南高 宏 編集長/富澤 治子 ●印刷/コロニー印刷  
●デザイン/(有)松永 社デザイン事務所  
●発行/熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市上通2-3  
TEL.096-278-7500 FAX.096-359-7892